

回避される〈こんにちは〉と選択される〈お疲れさま〉 —母語話者の現状と日本語教育での扱いについて—

影山 佳世子

1. はじめに

1. 1. 研究背景と目的

日本語に限らず外国語教育では挨拶言葉は最初に導入される表現であり、挨拶は言語活動の中でも最も基礎に当たる。様々な語や表現があるが、日本語教育の場合、「午前中はおはようございます、午後こんにちは」と挨拶する時間帯に合わせて示す以外に詳細に取り扱うことは少ないようである。

しかし午後の基本的な挨拶である「こんにちは」は、丁寧体と常体の区別がないため使いづらさがあり、実際には思いの外使用されていない。一方でいつでもどこでも「お疲れさま」と挨拶するような新しい傾向が急速に拡大している。これではこの「挨拶」が本来の意味機能を失うことが懸念されると同時に、時間以外の挨拶の判断基準を知らない外国人日本語学習者（以下、学習者）には混乱を招きかねない。これを考えると、時間に沿った指導のみでは実際に日本語母語話者（以下、母語話者）が行う挨拶に対して不足があるように思われる。

そこで本稿では母語話者が午後の出会いの場面で用いる挨拶表現の意識調査を目的とする。使用の少ない「こんにちは」と使用が広まっている出会い頭の「お疲れさま」に着目し、母語話者の使用実態を整理し、日本語教育の挨拶指導への提言を目指す。

2. 先行研究

2. 1. 本稿における挨拶の定義

挨拶について、『日本国語大辞典』第二版では次のように定義している。

- ① 禅宗で、問答によって門下の僧の悟りの深淺を試すこと
- ② 手紙の往復・応答のことば
- ③ 交際を維持するための社交的儀礼
- ④ 人と人との関係が親密になるようにはたらきかけること

本稿では③および④に基づき、挨拶がなされる場面を出会いの場面に限定する。

長谷川(2001)では、出会いの場面の冒頭で見られる発話と呼びかけの表現（間投詞や呼称）・挨拶語（おはよう、こんにちは、など社会的慣習に基づいて形式的に用いられる語句）・実質的表現（お久しぶりです、元気ですか、など実際に意味を持って用いられる表現）に分け、挨拶言葉と実質的表現について関係整理を行っている。実質的表現はさらに形式的に a. お久しぶり類（お久しぶり、お疲れさまです、など挨拶語として定型化しつつあるもの）と b. その他の表現（お待たせ、暑いね、など実際の意味を明確に持つもの）に分けられる。

本稿では挨拶として用いられる長谷川氏の4分類に会いの場面で行われ得る非言語的行動(会釈、手を振るなど)を加えたものを「挨拶表現」とし、また実質的意味をほとんど持たず儀礼的に用いられる挨拶を「挨拶語」とする。

2. 2. 挨拶語「こんにちは」について

2. 2. 1. 挨拶語「こんにちは」の特徴

「こんにちは」は「今日は良い天気ですね」などという挨拶の後半部分が省略され挨拶語化したものである(町田,2003・甲斐,1985)。

こんにちは[今日は]: 昼間、他家を訪問したとき、また、人と会ったときなどという
かんたんな挨拶 (『日本国語大辞典』第二版)

本稿では「こんにちは」およびそこから派生した形(こんちは、ちわ、こんちはっす、など)をまとめて「こんにちは」系挨拶とする。

「こんにちは」系挨拶の特徴については甲斐(1985)が詳しい。丁寧体か常体で待遇を変えることが出来ず親疎関係を示したり気持ちを込めたりすることが難しいことや、昼間の挨拶という以外に意味をほとんど持たず、「おはようございます」ほど一日の始まりを意識させるわけでもないというメッセージ性の薄さなどが、この挨拶を使いにくくしていると考えられる。

2. 2. 2. 「こんにちは」系挨拶の使用状況

土屋(1999)では大学生を対象に、会いの場面を様々に設定し、それぞれの場面でどのように挨拶を行うか質問紙調査を行い、得られたデータを、時間的要素(朝・昼・夕方・夜)、対人関係的要素(目上目下・親疎・ウチソト)、状況的要素(意図的な出会いか偶然出会ったのか)の3つの要素から分析している。昼の場面は15問用意されたが、「こんにちは」はほとんど選ばれず、先輩や教師など立場に差のある相手や、親しくない同級生や隣人など心理的にそれなりの距離がある相手に限り用いられていた。

倉持(2008a.)の大学1年生対象の質問紙調査では、「こんにちは」が最も使用される相手は社会的立場に差のある教師でも心理的距離の最も遠い他人でもなく「近所の顔見知り」であった。この結果を倉持氏は、「こんにちは」は関係を維持したいソトの人に対してある程度の距離感をもって使われるとしている。

中西(2008)では、1日の中で交わした挨拶表現を時間・相手・場所と共に正確に記録させるという日記調査法を行い、得られた結果を挨拶表現と相手との関係性から分析し、各挨拶表現の待遇度を数値化した。ここで「こんにちは」と「こんばんは」が丁寧体の「おはようございます」と近い数値を出したというのは興味深い。「こんに

¹ 荻野綱男(2005)「聞き手敬語の22年の変化」『日本語学会2005年度春季大会予稿集』より、交換

ちは」は丁寧体がないとされているが、目上の相手に用いられるなど、敬語に近い扱いであることがうかがえる。

2. 3. 挨拶表現「お疲れ」について

2. 3. 1. 「お疲れ」系挨拶の定義

挨拶語として社会的に用いられるが増えている表現だが、本来の相手をねぎらうという実質的意味を維持した用法も多いため、本稿では挨拶表現とする。

おつかれ[御疲]（「お」は接頭語）疲れたと思われる人を敬い、気遣って言うあいさつの言葉
（『日本国語大辞典』第二版）

本稿では「お疲れさまです」「お疲れさま」など、挨拶表現「お疲れ」から派生し同じように使用されると考えられる語句（「おっつー」などくだけた形も含む）をまとめて「お疲れ」系挨拶とする。

2. 3. 2. 「お疲れ」系挨拶の拡大使用

本来相手をねぎらうという行為は社会的に上の立場の者が目下の者に対して行うもの²であるが、特に「お疲れ」系挨拶については使用領域が大幅に拡大し、立場の上下に関係なく使われ、活動の終了時点や知人と会った時の挨拶語として用いられるなど、本来の相手を気遣うという意味を逸脱した用法も少なくない。

倉持(2008b.)では職場での使用を中心として「お疲れ」系挨拶の意味の希薄化と使用領域の拡大について論じている。相手をねぎらうということは、相手が何か仕事をしていて（あるいは終えて）疲れていることがわかる立場に発話者がいるということである。そこからウチ意識が生まれ、「お疲れさま」と挨拶を交わすことで、自分たちは仲間であり共に頑張っているのだと確認し合うことが出来ると考えられるという。そのため労働の終了時点やほたらいている相手の目前でねぎらう機能が希薄化し、代わりに仲間であることを確認しあう機能が拡大し、その日の最初の挨拶として使われるようにもなったという。使いにくい「こんにちは」の代わりに「お疲れ」系挨拶が好まれたことには、この挨拶表現の相手の仕事ぶりを認め、ねぎらい、仲間意識を示せるという特徴が大きな理由であると倉持氏は考えている。

3. 調査

日本語の挨拶の実態を日本語教育の観点から見た研究はまだ極めて少ない。しかし挨拶表現の機能や使用領域は変化しつつあり、これを考慮せず挨拶語のみ指導した場

平均法（「荻野の数量化」）を用いている。中西氏によれば「おはようございます」が51.3、「おはよう」が15.5となったのに対し、「こんにちは」は47.5、また「こんばんは」は42.2と丁寧体の「おはようございます」により近い数値となった。

² 現在「お疲れさま」などのねぎらいの表現と上下関係の見解は非常に揺れている。

合、実際に学習者が母語話者とコミュニケーションを取る際に、例えば友人に「こんにちは」と挨拶して疎遠な印象を与えたり、「お疲れ」系挨拶を拡大使用のまま習得し、正しく使ったつもりが相手に不快感を与えかねない。

そこで本調査では日本語の挨拶表現の選択に対する意識調査を目的とする。様々な出会いの場面において何をもとに挨拶表現が選択されるかなどを調査し、日本語教育に提示出来るよう整理する。

3. 1. 調査概要

方法：質問紙調査

対象：大学生及び大学院生（以下、学生）83名（男性30名、女性53名）

目的：出会いの場面において、「こんにちは」系挨拶が出現しにくい場合と「お疲れ」系挨拶が出現しやすい場合を把握する。

分析方法：場面に設定した水準の間の相関関係を見るために単回帰分析を行う。時間・場所・相手の3要因を設定するが「こんにちは」系挨拶は日没など自然現象にも左右され得るため時間について詳細には検証しない。

3. 2. 質問紙の概要

3. 2. 1. 場面設定について

コミュニケーションが発生し得る様々な出会いの場面を設定し、どのような挨拶をするのか（しないのか）を選択肢から選んでもらう。場面設定には土屋(1999)の3要素（対人関係的・状況的・時間的）をもとに、以下のような水準を設けた。

（1）対人関係的要素

本調査では「こんにちは」が使いにくい相手にどのような挨拶をするかを問うため、先行研究などをもとに次のように設定した。

- ①既知の相手か未知の相手か→既知に限定
- ②親疎関係→親しい相手に限定
- ③年齢差→不問（社会的立場の差を重視）
- ④社会的立場の差→自分と同等か先輩か後輩か

対人関係的要素については中西（2008）などすでに多くの研究がなされているが、拡大された出会い頭の「お疲れ」系挨拶は自分と近い相手にしか用いられないのか、それとも自分と立場の違う相手にも使われるのか、拡大使用がどの程度広まっているのかを検討する必要があると考える。

（2）状況的要素

- ⑤その日会うのは何回目か→「その日初めて」に限定
- ⑥場面の公私→活動場所（学校）かそれ以外か（以下、非活動場所）
- ⑦出会いの意図性

このうち⑥と時間的要素については本調査では重視している。特に「お疲れ」系挨拶の拡大に関して、本来のねぎらいの意味を残しているのならば、挨拶語として用い

回避される<こんにちは>と選択される<お疲れさま>

られたとしても労働や活動の場所で多く出現すると考えられる。さらに同じ活動の場でもより遅い時間帯の方がお互いに何らかの活動を終えていると想定出来るため、「お疲れ」系挨拶の出現率がより高くなることも予測出来る。ただし本調査では「こんにちは」系挨拶とその代わりに用いられている「お疲れ」系挨拶を問うため、12時ごろ（昼休み）・15時ごろ・18時ごろに限定した。

⑦については、本調査では同じ学校に通う相手を設定したため、活動場所では意図せずとも相手と会うことはほぼ確実である。一方、非活動場所は休日の外出先としたため、会う確実性はほとんどなく、偶然会えばその驚きを示す可能性が高いと考えられるため、待ち合わせて会ったと設定した。

以下の表はこれらの要素をもとに作成した場面をまとめたものである³。

表1 活動場所での出会い

相手 \ 時間帯	昼 12 時ごろ	15 時ごろ	18 時ごろ
友人	① ⑤ ⑯	⑦ ⑪ ⑳	⑬ ⑰ ㉓
先輩	② ③ ㉒	⑧ ⑨ ㉔	⑭ ⑱ ㉖
後輩	④ ⑥ ㉑	⑩ ⑫ ㉕	⑮ ⑲ ㉗

表2 非活動場所での出会い

相手 \ 時間帯	休日 昼 12 時ごろ	休日 15 時ごろ	休日 18 時ごろ
友人	㉘ ㉙ ㉛	㉟ ㊱ ㊳	㊵ ㊷ ㊹
先輩	㉜ ㉝ ㉞	㉠ ㉡ ㉢	㉣ ㉤ ㉥
後輩	㉟ ㊱ ㊳	㊵ ㊷ ㊹	㊻ ㊽ ㊿

3. 2. 2. 挨拶表現の選択肢

選択肢は予備調査として挨拶表現を自由記述させる質問紙を扱い、そこで得た回答を参考とし、次のように作成した。

表3 挨拶表現の選択肢

a. おはよう	b. おはようございます	c. おっはー	
d. こんにちは	e. こんにちは	f. こんにちはっす	g. ちわっす
h. ちわ			
i. こんばんは			
j. お疲れ	k. お疲れさまです	l. お疲れさま	m. おっつー
n. どうも	o. 「やっほー」「おー」「うっす」「おっす」など		
p. 相手の名前を呼ぶ（「先輩！」など含む）	q. 相手の体調を尋ねる（「元気？」など）		
r. 天候の話をする（「暑いね」など）			
s. 手を振る	t. 会釈	u. あいさつしない	v. その他

³表中の番号は質問紙の設問番号。設問文は本稿末に添付資料として提示。

4. 結果と分析

4. 1. 「こんにちは」系挨拶

各場面の「こんにちは」系挨拶の選択回数は次の通りである。

表 4-1 「こんにちは」系挨拶の選択人数とその割合（活動場所） 単位：人（％）

相手 \ 時間帯	昼 12 時ごろ	15 時ごろ	18 時ごろ
友人	5 (6.0%)	9 (10.8%)	3 (3.6%)
先輩	55 (66.2%)	46 (55.4%)	27 (32.5%)
後輩	16 (19.2%)	14 (16.9%)	9 (10.8%)

表 4-2 「こんにちは」系挨拶の内訳⁴（活動場所） 単位：人（回⁵）

相手 \ 時間帯	昼 12 時ごろ		15 時ごろ		18 時ごろ	
友人	d. 3(6) f. 1(3)	e. 1(3) g. 1(3)	d. 6(10) f. 1(3)	e. 3(3) g. 4(4)	d. 2(4)	f. 1(4)
先輩	d. 44(112) f. 4(8)	e. 6(13) g. 6(15)	d. 36(97) f. 3(7)	e. 4(9) g. 6(14)	d. 19(38) f. 3(7)	e. 3(5) g. 2(6)
後輩	d. 13(27) f. 1(3)	e. 3(6) h. 1(1)	d. 11(27) f. 1(1)	e. 4(6) g. 1(2)	d. 7(16)	f. 2(4)

表 5-1 「こんにちは」系挨拶の選択人数とその割合（非活動場所） 単位：人（％）

相手 \ 時間帯	休日 昼 12 時ごろ	休日 15 時ごろ	休日 18 時ごろ
友人	6 (7.2%)	6 (7.2%)	3 (3.6%)
先輩	34 (41.0%)	37 (44.6%)	18 (21.7%)
後輩	10 (12.0%)	11 (13.3%)	2 (2.4%)

表 5-2 「こんにちは」系挨拶の内訳（非活動場所） 単位：人（回）

相手 \ 時間帯	休日 昼 12 時ごろ		休日 15 時ごろ		休日 18 時ごろ	
友人	d. 3(6) f. 1(3)	e. 2(4) g. 1(3)	d. 4(9) f. 1(3)	e. 1(3) g. 1(3)	d. 1(3) g. 1(1)	f. 1(3)
先輩	d. 32(58) g. 1(3)	f. 2(4)	d. 34(94) f. 2(3)	e. 2(4) g. 1(3)	d. 14(35) f. 2(4)	e. 1(1) g. 1(3)
後輩	d. 9(19) f. 1(3)	e. 1(3)	d. 10(22) f. 1(1)	e. 1(1)	e. 1(2)	f. 1(3)

⁴ d. こんにちは e. こんちは f. こんちはっす g. ちわっす h. ちわ

⁵記号ごとに数えたため割合の表と人数が合っていない。百分率は小数第二位を四捨五入した。

回避される<こんにちは>と選択される<お疲れさま>

表6 「こんにちは」系挨拶 相手を変数とした単回帰分析
単相関行列 ** : 1%有意 (>0.917)

	友人	先輩	後輩
友人	1	0.654	0.742
先輩	0.654	1	0.960**
後輩	0.742	0.960**	1

活動場所と非活動場所を変数とした場合では相関係数は $r=0.22$ で弱い相関があったため(無相関検定では相関有意が確認されなかった)、「こんにちは」系挨拶に場所はまず関係がないようである。

相手に関しては、先輩に対して「こんにちは」系挨拶を用いるとした回答が、活動場所 12 時で 66.4%に選択されるなど、他の 2 者に比べて多かった。後輩に対しては活動場所 12 時が最多であったが 20%に届かず、友人に至っては活動場所 15 時の 10.8%が最多である。中西(2008)で「こんにちは」が「おはようございます」と待遇度が近いことが提示されたが、親しくとも目上の相手には丁寧体を用いるのと同様に「こんにちは」系挨拶も使用されるのである。友人や後輩には「やっほー」「おっす」などの呼びかけたり相手に気づいたことを示そうとする声かけが多く選ばれた⁶。なお表 6 で示したように相手を変数とした単回帰分析で強い相関があり有意であることも示されたのは先輩と後輩の間のみである。

なお「こんにちは」と語構成が似ている「こんばんは」⁷であるが、18 時の場面を見ると、活動場所で友人に 1 名(選択回数 3 回)、先輩に 13 名(31 回)、後輩に 3 名(7 回)、非活動場所で友人に 5 名(12 回)、先輩に 19 名(53 回)、後輩に 6 名(14 回)が選択した。比較的先輩に対して多く選ばれ、後輩、友人と減っていくことは「こんにちは」系挨拶と共通している。これは「こんにちは」と同様に、「こんばんは」も「今晚は寒いですね」などの挨拶表現を下略させたという発生の仕方である(甲斐,1985) ことが原因として考えられる。

4. 2. 「お疲れ」系挨拶

各場面の設問で「お疲れ」系挨拶を選択した人数は次の通りである。

⁶ 選択肢 o. 「やっほー」「おっす」などは、友人に対しては活動場所 12 時で 52 名に、15 時で 53 名に、18 時で 44 名に、非活動場所 12 時で 49 名、15 時で 48 名、18 時で 47 名に選択されそれぞれで最も多かった。後輩に対しては活動場所 12 時に 42 名、15 時に 36 名、非活動場所 12 時に 42 名、15 時に 44 名、18 時に 42 名が選択し、活動場所 18 時で j. 「お疲れ」が 46 名で最多だった他は o が最多であった。先輩に対しては場所を問わず 12 時と 15 時では d. が最も多く選択され、活動場所 18 時では k. 「お疲れさまです」が 47 名で、非活動場所では p. 名前を呼ぶが 22 名で最多 (k. が 20 名で続く) である。

⁷ 本調査は 10 月から 11 月初旬にかけて行った。夕方や夜の挨拶である「こんばんは」は 18 時という時間のほかに日没という自然現象も基準になり得るため、選択数は時期によっても変わってくると思われる。

表 7-1 「お疲れ」系挨拶の選択人数とその割合（活動場所） 単位：人（％）

相手 \ 時間帯	昼 12 時ごろ	15 時ごろ	18 時ごろ
友人	21 (25.3%)	28 (33.7%)	47 (56.6%)
先輩	28 (33.7%)	35 (42.2%)	49 (59.0%)
後輩	28 (33.7%)	35 (42.2%)	49 (59.0%)

表 7-2 「お疲れ」系挨拶の内訳⁸（学生回答：活動場所） 単位：人（回）

相手 \ 時間帯	昼 12 時ごろ	15 時ごろ	18 時ごろ
友人	j. 17(31) k. 1(1) l. 1(1) m. 2(5)	j. 27(57) k. 1(1) l. 1(2) m. 2(5)	j. 42(105) k. 2(4) l. 2(5) m. 2(6)
先輩	k. 28(60)	j. 2(4) k. 33(87)	j. 3(4) k. 47(124) l. 1(1)
後輩	j. 24(54) l. 4(6) m. 1(1)	j. 32(78) l. 4(7)	j. 46(106) k. 3(4) l. 8(17)

表 8-1 「お疲れ」系挨拶の選択人数とその割合（非活動場所） 単位：人（％）

相手 \ 時間帯	休日 昼 12 時ごろ	休日 15 時ごろ	休日 18 時ごろ
友人	7 (8.4%)	7 (8.4%)	10 (12.0%)
先輩	10 (12.0%)	14 (16.7%)	21 (25.3%)
後輩	8 (9.6%)	10 (12.0%)	15 (18.0%)

表 8-2 「お疲れ」系挨拶の内訳（学生回答：非活動場所） 単位：人（回）

相手 \ 時間帯	休日 昼 12 時ごろ	休日 15 時ごろ	休日 18 時ごろ
友人	j. 5(12) l. 1(1) m1. (2)	j. 6(16) k. 1(1)	j. 9(24) m. 1(1)
先輩	k. 8(22) m. 2(2)	k. 14(39)	j. 1(3) k. 20(51)
後輩	j. 6(16) k. 1(1) m. 1(2)	j. 9(21) k. 1(1)	j. 15(36)

表 9-1 「お疲れ」系挨拶時間を変数とした単回帰分析

単相関行列

**：1%有意（>0.917）

	昼 12 時ごろ	15 時ごろ	18 時ごろ
昼 12 時ごろ	1	0.986**	0.994**
15 時ごろ	0.986**	1	0.981**
18 時ごろ	0.994**	0.981**	1

⁸ j.お疲れ k.お疲れさまです l.お疲れさま m.おっつー

回避される〈こんにちは〉と選択される〈お疲れさま〉

表 9-2 「お疲れ」系挨拶 相手を変数とした単回帰分析
単相関行列 ** : 1%有意 (>0.917)

	友人	先輩	後輩
友人	1	0.984**	0.995**
先輩	0.984**	1	0.993**
後輩	0.995**	0.993**	1

活動場所での挨拶では、時間が遅くなるにつれていずれの相手に対しても「お疲れ」系挨拶が増えている。表 9-1 においても、12 時—15 時、15 時—18 時、12 時—18 時の間で非常に強い相関があることが示された。これは前章で予測した「同じ活動の場でも早い時間帯よりも遅い時間帯の方がお互いに何らかの活動を終えていると想定出来るため、より『お疲れ』系挨拶の出現率が高くなる」とも合う。非活動場所全体で「お疲れ」系挨拶の回答数が減っていることもこの裏づけとなる。なお活動場所の違いのみを変数としたところ、相関係数は $r=0.73$ で強い相関が確認された(有意水準 5%)。これは「お疲れ」系挨拶が本来の相手の活動や労働をねぎらう意味を残しているため、学校での活動をねぎらう意図でこの挨拶表現を用いると言える。学生はその日最初の授業が午後にあるため昼過ぎに登校するなど、一日の生活リズムが人によって異なり、登校時間や受講する授業が異なるため午後になって相手とその日初めて会うこともある。早い時間では相手は登校したばかりかもしれない、会う時間が遅くなるほどその日初めて会ったとしても相手が授業を受けるなど何らかのことを終えていると推測しやすくなり、時間を追うごとに使用が増えたと考えられる。また表 9-2 に見られるように、いずれの相手との間にも強い相関があった。相手が誰であるかも「お疲れ」系挨拶の選択に大いに関係するのである。

待遇度に関して、先輩に対して丁寧体ではない表現がわずかながら選択されているのには、待遇性の違いを出していないため、挨拶語として儀礼的に用いていることや、そもそも先輩に丁寧体を用いていないことが考えられる。

5. まとめと日本語教育への提案

5. 1. 挨拶に対する母語話者の意識

本稿では午後の基本的な挨拶語「こんにちは」と、近年増えている出会い頭の「お疲れさまです」について、様々な場面における母語話者の意識を検証した。

まず「こんにちは」系挨拶に関しては、目上の相手に対して多く用いられていることから、この挨拶語の待遇度の高さがわかる。「お疲れ」系挨拶も、先輩に対しては丁寧体「お疲れさまです」が選ばれたのに対し、後輩には丁寧体ではない形が選ばれている。さらに友人と後輩の共通する特徴として、「やっほー」「おっす」など呼びかけたりする、実質の意味をほとんど持たない表現が多く選択された。挨拶表現の選択に

立場の違う相手に対しては、目上には丁寧体やそれに近い待遇度の表現を選択し、目下には友人と同じような文体を使用するのである。

「お疲れ」系挨拶は活動場所で非常に好まれるだけでなく、さらに時間が遅くなるにつれて「お疲れ」系挨拶の使用が増えることがわかった。これは一日の生活リズムが人によって異なるため、早い時間帯では相手は登校してきたばかりかもしれない、時間帯が遅くなると相手はすでに授業を受けたり、何か活動をしてきていると想定出来るためであると考えられる。一方で非活動場所ではさほど多くは使用されない。このことから学生は、授業やクラブなど、学校での活動をもってねぎらいの挨拶表現を用いていると考えられる。

5. 2. 日本語教育への提案

「お疲れ」系挨拶を学習者 10 名（中国出身者 9 名と台湾出身者 1 名、いずれも大学院生）にどのように習得したかを聞いたところ、9 名が大学や語学学校の授業内で何らかの形で導入されたそうだが、仕事が終わった時の挨拶語であるとしか習わなかったり、目下の相手に使うもので目上には絶対使ってはならないと教えられた学習者もいる一方で目上の相手に使うと習った学習者もいる。「お疲れ」系挨拶は教える側の理解も一定ではないのである。

「お疲れ」系挨拶に関しては、まず何か労働を終え疲れていると思われる相手をねぎらうという本来の意味を押さえたうえで、同じ専攻であるなど活動場所を共有する相手に対して、その日の活動に言及する意味も込めて活動終了時や別れる際に用いる挨拶表現として提示するのが良いだろう。また留学が目的の学習者は、ある労働を直接ねぎらうのではない、拡大用法を日本人の学生の実際の使用やドラマなどで耳にする可能性も高い。「相手をねぎらう」という本来の意味を知っていることが、来日して母語話者が使用するのを聞いた時に、学習者自身がその用法を規範通りであるのか規範を外れた用法なのか判断する一助となり得よう。

「こんにちは」系挨拶に関しては、目上の相手に対して好んで用いられ、立場上近い相手や親しい相手には用いないという性質上、常体と丁寧体の区別を導入する段階で「こんにちは」が丁寧体とほぼ同じ待遇度であることを示すのが良いだろう。せっかく出来た日本人の友人と丁寧体を使わず親しくなりたい学習者にとって、「こんにちは」の高い待遇度がそれを阻害しかねない。

母語話者がある言葉の意味を拡大させたり変化させたりして用いることはいずれの言語でも起き得ることであり、規範を外れた用法をいかに扱うかは外国語教育の課題のひとつであろう。会話の中のただ一言ではあるが挨拶にも同じことが言える。学習者の損とならないように、正しい用法を前提に、常に変わっていく現状も加味しながら提示の仕方を考えていく必要があるだろう。

参考文献

- 奥山益朗 編 (2001) 『新装普及版 あいさつ語辞典』東京堂出版
- 甲斐睦朗 (1985) 「現代日本語のあいさつ言葉について」『国語国文学報』愛知
教育大学国語国文学研究室 42号
- 北原保雄 主著 (2001) 『日本国語大辞典』第二版, 小学館
- 倉持益子 (2010) 「出会いのあいさつ言葉におけるコードと機能の変化—『こんにちは』を例に—」『言語と交流』言語と交流研究会 13号
- (2008a.) 「日本語におけるあいさつことばの新傾向—『こんにちは』『さようなら』場慣れの背景—」『日本語教育学世界大会 2008 予稿集 2』
- (2008b.) 「『お疲れ』系あいさつの意味の希薄化と使用場面の拡大—職場での使い方を中心に」『明海日本語』言語と交流研究会 13号
- 鈴木孝夫(1968)「あいさつ論—あいさつの言語社会学的考察」『言語生活』196号
- 土屋頼子(1999)「言語行動を構成する要素とその機能—出会いのあいさつを中心に—」『筑波応用言語学研究』筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科応用言語学コース 5号
- 中西太郎(2008)「『あいさつ』における言語運用上の待遇関係把握」『社会言語科学』社会言語科学会 第11巻第1号
- (2005) 「出会いの言語行動と親疎意識」『言語科学論集』東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 09号
- 中道真木男・石田恵里子(1999)「日本語学習者と『あいさつ』—日本語教育の場で」『國文學 特集：あいさつことばとコミュニケーション』44号
- 長谷川頼子(2001)「出会いの場面にみられるあいさつ語と実質的表現」『筑波応用言語学研究』筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科応用言語学コース 8号
- (2000) 「出会いの場面にみられるあいさつ言葉以外の表現」『言語学論叢』筑波大学一般応用言語学研究室 19号
- 町田互 (2003) 「語源や語の由来を利用した日本語指導—挨拶・待遇表現を中心に—」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第6輯

添付資料：質問紙の質問文

- ① 昼休みに、教室で友達に会いました。
- ② 昼休みに、学校の中を歩いていると、仲の良い先輩に会いました。
- ③ 昼休みに、教室で仲の良い先輩に会いました。
- ④ 昼休みに、学校の中を歩いていると、仲の良い後輩に会いました。
- ⑤ 昼休みに、学校の中を歩いていると、友達に会いました。

- ⑥ 昼休みに、教室で仲の良い後輩に会いました。
 - ⑦ 15 時ごろ、教室で友達に会いました。
 - ⑧ 15 時ごろ、学校の中を歩いていると、仲の良い先輩に会いました。
 - ⑨ 15 時ごろ、教室で仲の良い先輩に会いました。
 - ⑩ 15 時ごろ、教室で仲の良い後輩に会いました。
 - ⑪ 15 時ごろ、学校の中を歩いていると、友達に会いました。
 - ⑫ 15 時ごろ、学校の中を歩いていると、仲の良い後輩に会いました。
 - ⑬ 18 時ごろ、学校の中を歩いていると、友達に会いました。
 - ⑭ 18 時ごろ、教室で仲の良い先輩に会いました。
 - ⑮ 18 時ごろ、教室で仲の良い後輩に会いました。
 - ⑯ 18 時ごろ、教室で友達に会いました。
 - ⑰ 18 時ごろ、学校の中を歩いていると、仲の良い先輩に会いました。
 - ⑱ 18 時ごろ、学校の中を歩いていると、仲の良い後輩に会いました。
 - ⑲ 昼休みに、校内で友達に会いました。
 - ⑳ 昼休みに、校内で仲の良い先輩に会いました。
 - ㉑ 昼休みに、校内で仲の良い後輩に会いました。
 - ㉒ 15 時ごろ、校内で仲の良い先輩に会いました。
 - ㉓ 15 時ごろ、校内で仲の良い後輩に会いました。
 - ㉔ 15 時ごろ、校内で友達に会いました。
 - ㉕ 18 時ごろ、校内で友達に会いました。
 - ㉖ 18 時ごろ、校内で仲の良い先輩に会いました。
 - ㉗ 18 時ごろ、校内で仲の良い後輩に会いました。
- (以下の場面では相手とは待ち合せて会ったとします。)
- ㉘ 休日の 12 時ごろ、外出先で友達と会いました。
 - ㉙ 休日の 12 時ごろ、駅の改札で友達と会いました。
 - ㉚ 休日の 12 時ごろ、外出先で仲の良い先輩と会いました。
 - ㉛ 休日の 12 時ごろ、街中で仲の良い先輩と会いました。
 - ㉜ 休日の 12 時ごろ、外出先で仲の良い後輩と会いました。
 - ㉝ 休日の 12 時ごろ、駅の改札で仲の良い後輩と会いました。
 - ㉞ 休日の 12 時ごろ、駅の改札で仲の良い先輩と会いました。
 - ㉟ 休日の 12 時ごろ、街中で友達と会いました。
 - ㊱ 休日の 12 時ごろ、街中で仲の良い後輩と会いました。
 - ㊲ 休日の 15 時ごろ、外出先で友達と会いました。
 - ㊳ 休日の 15 時ごろ、街中で友達と会いました。
 - ㊴ 休日の 15 時ごろ、外出先で仲の良い後輩と会いました。

回避される<こんにちは>と選択される<お疲れさま>

- ④⑩ 休日の15時ごろ、駅の改札で仲の良い後輩と会いました。
- ④⑪ 休日の15時ごろ、街中で仲の良い先輩と会いました。
- ④⑫ 休日の15時ごろ、街中で仲の良い後輩と会いました。
- ④⑬ 休日の15時ごろ、駅の改札で仲の良い先輩と会いました。
- ④⑭ 休日の15時ごろ、駅の改札で友達と会いました。
- ④⑮ 休日の15時ごろ、外出先で仲の良い先輩と会いました。
- ④⑯ 休日の18時ごろ、外出先で仲の良い後輩と会いました。
- ④⑰ 休日の18時ごろ、外出先で友達と会いました。
- ④⑱ 休日の18時ごろ、外出先で仲の良い先輩と会いました。
- ④⑲ 休日の18時ごろ、駅の改札で仲の良い先輩と会いました。
- ④⑳ 休日の18時ごろ、街中で仲の良い先輩と会いました。
- ④㉑ 休日の18時ごろ、街中で仲の良い後輩と会いました。
- ④㉒ 休日の18時ごろ、駅の改札で仲の良い後輩と会いました。
- ④㉓ 休日の18時ごろ、街中で友達と会いました。
- ④㉔ 休日の18時ごろ、駅の改札で友達と会いました。

(かゞやま かよこ・首都大学東京大学院博士前期課程修了)